

講 義 等 の 内 容 (博 士 前 期 課 程)

授 業 科 目 名 (担 当 者 名)	講 義 等 の 内 容
演習 I 特別演習 I (麻 生 隆 史)	近年、情報技術が様々な分野で普及している中、その基礎理論をアナログとデジタルを比較することにより学ぶ。その際、デジタル信号処理の基本的な概念を中心に、具体例を挙げて説明し、さらに情報機器を使用して実践的にシミュレーションを行う。また、研究を進めるにあたっての必要な文献調査の方法や論文の読み方を指導する。
演習 I 特別演習 I (荒 平 高 章)	工学的手法や情報学的手法は、様々な分野で使用され、新たな技術が次々と創出している。そこで、これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する。具体的には、組織工学に基づく材料設計、in vitro 実験、生体工学に基づく数値解析などである。
演習 I 特別演習 I (遠 藤 真 紀)	コロナ禍への対応など企業の経営環境は激変しており、市場環境の認識と経営戦略の重要性が増している。演習 I では、様々な企業の具体的な事例（社会人においては自社の経営戦略等）について考察し、基本的な戦略理論について概観・理解するとともに、修士論文のテーマ設定に必要な研究を行う。特別演習 I では、自身の研究テーマに必要な文献・資料の収集・考察等を通して、問題意識（仮説・視座等）の設定・明確化と修士論文の骨子について検討する。 机上での学習・研究だけでなく、必要に応じてフィールドワークを行う事がある。
演習 I 特別演習 I (小 川 雄 平)	経済のグローバル化が進展した結果、企業経営は、変化の激しい経済環境に対応した国際経営戦略の下に遂行せざるを得なくなっている。演習 I では、多くの日本企業が事業展開している東アジア地域を中心に、企業を取り巻く国際経済環境を考察し、それに対応する企業の国際経営戦略を理論的・実証的に検証する。 特別演習 I では、各自の個別研究課題の設定・明確化を図り、修士論文のスケルトンの作成を目指す。
演習 I 特別演習 I (春 日 克 則)	いわゆる会計ビッグバン以降、わが国の会計基準ないし制度の多様化・複雑化が進展しており、これを受け会計学もまた、大学の4年間では修得できない程その研究領域が拡大している。そこで、演習 I ではこの拡大した領域について大学院生として求められる知識（とりわけ財務会計分野）の習得と、修士論文のテーマ設定に有用な研究を行うことを目的としている。 特別演習 I は、修士論文の作成に必要な、問題意識の明確化、先行研究のレビュー、そして当該先行研究に対する自らの研究の位置付けを行っていく。
演習 I 特別演習 I (片 山 准 一)	現代の企業経営は、周りの環境も含めて高度化・専門化・複雑化してきている。こうした状況を踏まえて、具体的な事例を挙げながら研究指導にあたりたい。各自の研究テーマに沿った形で研究指導していきたい。
特別演習 I (倉 地 和 敏)	租税は国民生活の基盤を支える重要なものであり、日本国憲法をはじめ各租税法等においてその義務と手続きについて定められている。 日本国における税制について、現行法の状況、立法趣旨、判例・学説の動向を研究する。 具体的には、修士論文の研究対象として選んだテーマの文献収集・読解、論点の取りまとめを、指導教員との議論を通じて行っていく。

授業科目名 (担当者名)	講義等の内容
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (車柄圀)	<p>演習Ⅰでは、最近インターネット技術の進歩やパソコンおよびデジタルカメラの普及により多くの分野において情報発信手段として用いられているカラー画像の処理技術、つまりデジタル画像処理の基盤技術およびその最新研究動向を把握するのを目的とする。また、MATLAB による画像情報処理の基礎的な関数について演習を行う。</p>
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (丹羽崇之)	<p>演習Ⅰでは、各回租税法の重要判例を検討する。判決（決定）について、第一審から判例集を読み込んだ上で、関係条文を熟読し、事実、争点（当事者の主張）、それに対する裁判所の判断、判決（決定）の意義及び課題等について討論することにより、租税法条文の具体的適用力、法的思考力、紛争処理能力を涵養する。</p> <p>特別演習Ⅰでは、各人の研究課題に取り組む。</p>
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (平山誠一郎)	<p>演習Ⅰでは、主要な裁判例を基に討議を行う。そのため、判決文（原文）を第一審から読み、基礎事実、争点及び争点に対する原告・被告双方の主張並びに裁判所の判断（法令解釈、事実認定、あてはめ）を整理し、理解しておく。</p> <p>特別演習Ⅰでは、修士論文の研究テーマに関する条文・定義の理解、関連文献の収集・検討、論点整理等に取り組む。</p>
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (宮崎裕士)	<p>演習Ⅰでは、年間で 30 の主要な租税法判例研究を通じた租税法における基礎概念の定着、および法条文の読み方、判例研究のやり方と研究課題の選定を目標とする。</p> <p>具体的には、テキスト等による租税法理論の事前学習と理論の実証場面としての判例研究を対応させながら、課題研究を報告してもらい、それに対するコメントを付すという形式で行っていく。</p> <p>特別演習Ⅰでは、実際に自分の研究課題について取り組んでもらい、自身の研究課題と研究計画のアップデートを計画的に行っていく。その際、資料収集の方法等の指導も行う。社会人、特に会計事務所勤務の方が大半を占める環境の中で、一般的な閑散期である 6 月から 11 月までの期間で集中的に資料収集や研究の基礎を形作ること、各自の効率的な研究の発展に寄与することを狙う。</p> <p>研究とは、基本的には一人で行うものであるが、対話により発展するものでもある。院生同士、あるいは教員と自由闊達に議論を行うことで、院生自身の知識の定着と、知識の論理への発展を期待する。</p>
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (山下壽文)	<p>会計基準のグローバル化のもとでわが国の会計基準がどのように変容したか、国際会計基準とわが国の会計基準の比較検討を行うことにより検証する。その際に、会計基準設定の基礎となる会計公準と会計原則の構造および「概念フレームワーク」について、その前提となるアプローチ（収益費用アプローチから資産負債アプローチへの展開）と関連づけて考察する。</p>
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (麻生隆史)	<p>情報技術を駆使して実際に利用されているソフトウェア・ハードウェアを調査し、プログラミング技術やハードウェアの開発プロセスを学び、それをどのような手法を用いて応用するかを指導する。特にソフトコンピューティングの基礎については詳細に説明する。同時に文献調査や英文論文読解も行う。また、情報科学の分野における論文作成手法を指導する。</p>

授業科目名 (担当者名)	講義等の内容
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (荒平高章)	演習Ⅰ・特別演習Ⅰを受け、自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、引き続き研究を継続し、実験データを整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (遠藤真紀)	演習Ⅰおよび特別演習Ⅰで設定した各自の問題意識（仮説、視座等）を掘り下げるとともに、修士論文作成に必要な分析・検証手法を含めた研究方法等について指導する。文献・資料やフィールドワーク等を通して得られた情報を考察していき、修士論文の完成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (小川雄平)	演習Ⅰ・特別演習Ⅰで設定・明確化した各自の個別研究課題を深く掘り下げ、先行研究を検証した上で、修士論文の完成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (春日克則)	演習Ⅱと特別演習Ⅱは、修士論文の作成（完成）を目的としている。 具体的には、①自らの研究に係わる先行研究を過不足なく取り上げること、②仮説の提示、③論文の中核である仮説の検証・論証テスト、④結論、の各要素を意識しながら仕上げることである。なお、論文には、結論の新規性、分析の独自性、そして、インプリケーションが求められていることも念頭に置く必要がある。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (片山准一)	演習Ⅰ及び特別演習Ⅰで基礎部分を構築し、本演習では修士論文作成に向けて指導を行う。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (倉地和敏)	演習Ⅱ及び特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けて修士論文の作成に取り組む。 具体的には、論点の整理の仕方、論理展開の進め方、先行研究の引用の仕方、文章の作成の仕方など、修士論文の作成に必要な事項について、一つ一つ指導を受けながら習熟した上で、修士論文の完成を目指す。研究結果を論文等にまとめる能力を向上し、充実した内容と整った形式を備えた論文の作成を目指す。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (車炳圀)	演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き人間の色覚情報に基づいたデジタル画像処理に関する演習を行う。具体的には、画像の特徴抽出及び領域分割、色変換などの諸手法について MATLAB を用いて演習を行い、色覚バリアフリー社会の実現に向けた高汎用性の新しい手法の提案を試みる。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (丹羽崇之)	演習Ⅱ・特別演習Ⅱでは、各人の研究課題をさらに探求し、修士論文に結実させる。先行研究を網羅的に検討したうえで、租税法の基本原則から出発し、租税法解釈学の発展を目指すことになる。なお、租税法の正確な理解のためには、隣接諸科学に関する知識と理解が不可欠であることを銘記しておかなければならない。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (平山誠一郎)	演習Ⅱ及び特別演習Ⅱでは、各人の研究課題について、先行研究の検討、裁判例の分析、問題点の検証などを行い修士論文の完成を目指す。

授業科目名 (担当者名)	講義等の内容
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (宮崎裕士)	<p>演習Ⅱおよび特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けながら修士論文の作成に取り組んでもらう。</p> <p>具体的には、修士論文の作成に必要な事項や留意すべき点について講義中に指導をし、また、論文を実際に作成しながらそれらを習熟してもらうことで、修士の学位に相応しいのみならず、社会一般に寄与するような研究を目指してもらいたい。</p>
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (山下壽文)	<p>わが国の会社法会計、金融商品取引法会計および税務会計の比較検討をとおしてわが国の制度会計の体系を考察する。とくに、シャウプ勧告にもとづく戦後税制改革において会計基準が果たした役割、法人税法第 22 条の公正処理基準との関係について検証する。なお、公表財務諸表についての分析手法についても併せて検討する。</p>